

三原市民と市長の「みらいトーク」(第5回) 実施結果

令和3年3月12日

目的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日時 令和3年2月19日(金曜日) 17時から18時30分

場所 ドリームキャッチャー(城町, サン・シープラザ3階)

参加者 障害のある人とそのご家族(7名), 三原市長

- ・参加者は、一般企業で就労しながら支援を受けている方、ご家族の支援を受けながら在宅生活を送られている方、地域生活支援センターのピアスタッフなど。
- ・令和2年12月の「フクシカケルミハラ」の企画の中で、企画に参加された方と市長が意見交換し、障害のある人とそのご家族との意見交換を市長が発意。
- ・令和2年度、市(社会福祉課)の障害者週間啓発事業受託事業者として「フクシカケルミハラ」を企画・運営した有限会社わくわくの西上代表取締役へ、市が参加者のコーディネートを依頼し、同氏が選定。

内容 次の2点に関する、参加者からの意見聴取

(1) 三原市のデジタル化に懸ける期待

- ・スマートフォンは音声で色々な機能を使用できる。これをもっと多くの人に知って欲しい。
- ・図書館にある、耳で読書ができる機械(プレクストーク)を、目が不自由な人以外でも利用できると良い。
- ・高次脳機能障害のある人は、デジタル技術の活用がとても難しい。
- ・医療費還付の申請や、戸籍等証明書の交付申請、通訳派遣の申請などの申請手続きをインターネットでできるように早くして欲しい。
- ・病院受診の予約をインターネットでできるようにして欲しい。電話での予約受付が多いが、聴覚障害があると予約申し込みができない。
- ・避難所では色々な情報が出されるが、聴覚障害があるとわからない。情報を文字にして見えるようにしてくれる道具があると良い。

(2) 市に対して求めること

- ・ PayPay で公共料金を支払えるようにして欲しい。
- ・ 出前講座を対面ではなく ZOOM で実施できるようにして欲しい。
- ・ 障害者手帳とバスの優待乗車証を，紙ではなくカードにして欲しい。
- ・ 佐木島住民のヘルパー利用に係る支援(サービス量，船代)をして欲しい。
- ・ 暴走族三原駅構内を通り，大きな音がして怖い。通らないようにして欲しい。
- ・ 三原駅周辺の点字ブロックが破損していて歩きづらい箇所がある。破損個所を確認して歩くイベントなどを実施して，一緒に点検して欲しい。
- ・ 三原市のスローガンを教えて欲しい。
- ・ 市民に手話を普及させて欲しい。消防，特に救急隊員に手話を知って欲しい。毎月，広報誌に単語を一つ掲載したり，幼稚園や小学校で子どもたちに教えたりしてはどうか。

市長の意見(回答)

- ・ スマホの音声認識機能は，上手く活用すれば目の見えない方の生活を支える道具にでき，生活の利便性向上につなげることができる。他にも，デジタル技術を活用してできることを今後考えたい。
- ・ 高次脳機能障害など，障害の種類によってはデジタルのメリットがないかもしれないことがわかった。今後デジタル化を進めるうえで，そうしたことも考慮する。
- ・ 頻繁に行かないといけない申請がネットでできると便利とわかった。まずは，申請の頻度が多いものを調べる。
- ・ 出前講座の ZOOM 等オンラインでの実施は，実施に向けて検討する。
- ・ 障害者手帳や優待乗車証のカード化については，他市町の事例を調査する。
- ・ 点字ブロックの点検をイベント的に実施することは，実施に向けて検討する。障害のない方にも関心を持ってもらえる良い機会にできる可能性がある。
- ・ 三原市のスローガンは，シティプロモーションの取組の一貫で，これから市民の皆さんとつくっていくということを考えている。来年度も引き続き取り組むので，ぜひ皆さんにもワークショップにも参加してもらって，一緒に考えていきたい。
- ・ その他，本日いただいたご意見は，今後の市政運営の参考にする。